

課題解決型研究プログラム 安全確保研究プログラム

委員会の主要意見
現状についての評価・質問等
<p>○製品から表面付着ダストへの移行動態(プロジェクト5)や水銀問題(プロジェクト9)などは良い成果が挙げがりつつある。</p> <p>○研究の基盤となる研究法の基礎的開発や環境状態の把握評価が主となる研究プログラムであるが、プロジェクトが多岐にわたり、プロジェクト間の連携や全体像が見えにくい。</p> <p>○プロジェクト1サブテーマ1及び3ではそれぞれ BPA、砒素について検証されているが、開発中の毒性試験法を用いて他の環境汚染化学物質についての検証も行う予定か。</p>
今後への期待など
<p>○排水を海域に放流する場合の生態系影響の評価法として、海産生物を利用した生物応答試験は不可欠であり、信頼性の高い情報を提示できる手法とするための知見が蓄積され、また、海洋生態系影響の要因解析などもあわせ期待される。</p> <p>○国内外における条件が大きく異なる地域に対して、新たなものを含む環境関連の技術やシステムを導入するための FS 等手法の確立に関して、SDGs とも関連づけながら、その手法の普及を目指してわかりやすくまとめてみてはどうか。</p> <p>○研究プログラムを統合的に扱うプロジェクト8の研究体制を整えることによって、プロジェクト8の成果が上がることを期待する。</p>

主要意見に対する国環研の考え方
<p>①引き続き、表面付着ダストへの移行動態の解明、水銀問題への取り組みを進めてまいります。</p> <p>②安全確保は多面的な角度からの取り組みが必要な分野であるためどうしても多岐にわたる研究となると考えています。しかし、相互に関連する分野等もちろんあるので、次回以降は分野等の構造をより適切にお示しできるよう努力します。</p> <p>③プロジェクト1サブテーマ1については、アレルギー性喘息モデルの実験系で、現在リン系難燃剤の影響評価を開始したところです。また、BPA 代替物質(BPS または BPF)での検討も計画中で、その実験に備えて、実験動物の飼育環境からの BPA 代替物質の曝露の有無を確認するため飲水中の含有量を分析し、いずれも検出限界以下であることを確認しました。機序についても、検討を進めていきます。プロジェクト1サブテーマ3については、化学物質毎で作用機序は異なる可能性はありますが、同様の影響が予想される化学物質について新規プロジェクト等で試験法の検証を実施したいと考えております。</p> <p>④プロジェクト4と関連して、海産・汽水生物を用いた生物応答試験法の開発を、環境省推進費を得て実施中で、鋭意、試験生物種やプロトコルの検証を行っている。2年程度でリングテスト等を実施し、信頼性の高い結果が提示され、結果が蓄積されるよう、海洋生態系の検討もあわせ進めてまいります。</p> <p>⑤プロジェクト7における技術導入に対しての社会適合性の評価の進め方についての確かなアドバイスを頂き、ありがとうございます。本研究を通じて、環境関連の技術やシステムを導入するための評価手法の開発を行うと共に、評価手法の確立や他地域への応用についても視野に入れた取り組みを行っていきたくと考えております。</p> <p>⑥プロジェクト8は次年度にはより具体的な内容を報告できるよう努力します。</p>